

1. 参考資料

- ・「日本国勢図会」第62版、矢野恒太記念会、2004年
- ・「数字でみる日本の100年」改訂第4版、国勢社、2000年

2. 一次エネルギー供給量:(2002年度の姿) 資源エネルギー庁の統計

- ・石油 49.7%、石炭 19.5%、天然ガス 13.5%、原子力発電 11.6%で9割を占める。
これらのほとんどが輸入エネルギー(原子力を除いても輸入依存度は8割に達する)
- ・純国産のエネルギーは、水力発電 3.2%、自然エネルギー(太陽、風力、バイオマスなど) 0.2%、地熱エネルギー0.1%など少ない。コスト高、立地の限定など
- ・他に、廃棄物エネルギー(廃棄物発電など)や廃棄エネルギー(廃熱利用熱供給など)が各々1%強。
- ・エネルギー消費の部門別内訳は、産業部門 47%、家庭部門 13%、業務部門 16%、運輸部門 24%。

3. 主要エネルギーの変遷 石油のウェイトは70年代後半から低下傾向

- ・戦後、一次エネルギーの主力は石炭から石油に変わり、70年代には石油のウェイトが7割を越えていたしかし、石油への依存度は2度の石油危機を経て減少傾向を続けている。

	1955年	60年	65年	70年	75年	80年	85年	90年	95年	2000年
石油(%)	18	38	60	72	73	66	56	58	52	51
石炭(%)	47	41	27	20	16	17	19	17	17	18
水力(%)	27	16	11	6	5	5	5	4	4	3
熱量(55年の倍数)	1.0	1.6	2.6	5.0	5.7	6.2	6.3	7.6	8.4	8.8

- ・石油に代わってウェイトを高めたのは天然ガス(1970年シェア1.2%)と原子力発電(同0.3%)。石油危機など石油価格の大幅変動や供給不安の経験から、過度な石油依存の危険性が認識されたことによる。現在では、発電に占める原子力の割合が34.5%(電気事業用2002年)。
- ・国内の石炭産業は、戦後復興期に一時脚光を浴びた(「傾斜生産方式」などによる。戦後ピークの1961年には55百万トン生産)が、「エネルギーの流体革命」で衰退。主要炭鉱は2002年1月までに全て閉山。

4. 主な輸入先と埋蔵量

- ・わが国の原油の輸入は、中東産油国からが多い:原油の輸入依存度は99.7%(2002年)
2002年の原油輸入(2.36億kl)の国別内訳(日本関税協会調べ)は、サウジアラビア26%、アラブ首長国連邦24%、イラン12%、カタール10%、クウェート8%、オマーン5%、インドネシア4%等…中東を合計すると86%強
世界の原油輸入に占める日本の割合は10.4%(米国<25%>に次いで2位)、世界の原油消費に占める割合は6.0%(米国<23%>、中国<6%>に次いで3位):いずれもIEA(国際エネルギー機関調べ)
- ・原油の埋蔵量は世界で2,012億kl確認(2003年)。うち、サウジアラビア20%、カタール14%(含むオイルサンド)、イラン10%、イラク9%、アラブ首長国連邦8%、クウェート8%、ベネズエラ6%、ロシア3%等…中東を合計すると57%強
可採年数(確認埋蔵量/生産量)は2003年には世界全体で50.9年:オイル・ガス・ジャーナル誌調べ
- ・わが国の石炭の輸入は、豪州など環太平洋諸国からが多い(2002暦年、通商白書ほか)
オーストラリア57%、中国18%、インドネシア12%、カタール6%、ロシア4%等:石油の輸入国とは殆ど重ならない
- ・石炭の埋蔵量は世界で5,119億トンを確認(1999年)。うち、米国22%、インド16%、中国12%、南アフリカ10%、ロシア9%、オーストラリア8%、カザフスタン6%、オランダ4%等:国連資料等による、石油とは異なる分布
可採年数(確認埋蔵量/生産量)は2000年には世界全体で150.9年:国連資料等による
- ・わが国の液化天然ガスの輸入は、東南アジア・豪州など環太平洋諸国からが多い(2002暦年、経産省)
LNG輸入の国別内訳は、インドネシア29%、マレーシア21%、オーストラリア14%、カタール12%、ブルネイ12%等
- ・天然ガスの埋蔵量は世界で172兆m³確認(2003年)。うち、ロシア28%、イラン16%、カタール15%、サウジアラビア4%、米国3%、アルジェリア3%、ナイジェリア3%等:オイル・ガス・ジャーナル誌調べ…中東を合計すると41%強
- ・ウランの埋蔵量は世界で318万トン確認(2001年)。うち、オーストラリア22%、カザフスタン19%、米国11%、カナダ10%など。